

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

07

VOL.



すっかり冬支度をしたヨシ原に
なり、いよいよ各地でヨシ刈りが始
まります。
12月から始まるヨシ刈りは
来年の3月初旬ごろまで続きます。

2010. 11月下旬 西の湖のヨシ原

ヨシ原に生息する魚といえば、ニゴロブナが有名
です。びわ湖の固有種であり、古くから「ふなず
し」の材料として利用されてきました。

名前の由来はゲンゴロウブナ(源五郎鮒)に顔
つきなどが似ているためニゴロブナ(似五郎鮒)
の名がついたという説が有力だそうです。

動物プランクトンを中心に食べ、繁殖期は4月～
6月ごろにかけてで、浅瀬や内湖などのヨシ帯に
産卵します。その後、秋ごろには徐々に沖合へ
と移動し、冬季にはびわ湖の深部へ移動し越冬
するそうです。

みなさんご存じの通り近年は、漁獲量が激減
しており、ニゴロブナを増やしていくには、稚魚を
捕食する外来魚(オオクチバスなど)の駆除や、
産卵場繁殖場であるヨシ帯の保全が欠かす事
の出来ない対策になっているそうです。

ヨシの
まめ
ちしき

びわ湖を知る ■ 問題



<問題> 日本で最も広い面積のびわ湖の
体積(水の容量)は約何m³でしょうか。

- ① 約275億m³
- ② 約10億m³
- ③ 約475億m³
- ④ 約2750億m³

特集 1ページ

びわこ 湖北の渡り鳥

【湖北野鳥センターと琵琶湖水鳥・湿地センター】

「湖北野鳥センター」は琵琶湖の東北部、長浜市湖北町の湖岸にある長浜市立の野鳥観察施設で、昭和63年11月にオープンしました。隣接する「琵琶湖水鳥・湿地センター」は、環境省の施設で平成9年5月に開設されました。運営はどちらも長浜市が行い、びわ湖を中心とした自然環境を保護保全するために、子どもたちの環境教育や広く一般の方々にも自然に接し、自然の面白さや大切さを学んでもらうための施設です。

年間約3万人の方が入館され、特に多くの冬鳥が飛来する秋から冬のシーズンは、県内外から多数の方が訪れ賑わいます。

【びわ湖に渡ってくる冬の水鳥と周辺の自然環境】

野鳥センター周辺約2.5kmのびわ湖岸は、「湖北水鳥公園」に指定されびわ湖の中でも最も豊かな自然が残された地域になっています。秋から冬には、コハクチョウや国の天然記念物のオオヒシクイ、絶滅危惧種のオオワシ等貴重な冬鳥がやってきました。カモの仲間は周辺に何万羽と入り、クイナの仲間のオオバンやユリカモメも多数見られます。今までに水鳥公園内で236種類もの野鳥が観察され、野鳥センター内からでも60種類以上観察できる日もあります。

このあたりは琵琶湖の環境だけでなく、東に山本山がありその前には水田が広がり、多様な自然環境に恵まれているため、水鳥だけでなく山の小鳥や猛禽類も多く、国内でも1級の野鳥観察ポイントになっています。春から夏には数は少なくなりますが、カルガモやマガモ等のカモ類やカイツブリ、オオバン、トビ、南から渡ってきたヨシ原を代表する鳥オオヨシキリ等が湖岸でたくさん繁殖します。公園内に残されているヨシ原は、ここに暮らす鳥たちにとっては大切な場所で、多くの生き物の命を支えています。鳥だけでなく魚の産卵場所としても重要で、6月頃にはセンター内から大きなコイたちの産卵シーンを見ることもできます。



湖北野鳥センター
琵琶湖水鳥・湿地センター
所長 清水 幸男 様より



『野鳥・湿地センターの外観』



『センター前夏の景色』



『山本山にとまるオオワシ』



『夕景のコハクチョウの群れ』

特集 2ページ

【鳥たちの住みよい環境とは】

多くの鳥たちが集まるには2つのポイントがあります。
まずエサが豊富にあることです。
センター周辺は遠浅の湖岸で水草がたくさん繁茂しています。
その中に魚やエビ、貝等の水生生物が多数生息し、これらの動植物をエサとする水鳥たちもたくさん集まってきます。
しかし、植物質を食べるカモの数は膨大で、びわ湖だけではエサが不足してしまいます。この時水田が大切なエサ場となります。
冬にコハクチョウが水田で落穂や二番穂を啄ばむ姿を見られた方も多いと思います。

もう1つのポイントは安全であることです。
ヨシ原や沖の中州は絶好の休み場所で大切な繁殖地にもなっています。
これらの条件を備えたところが湖北水鳥公園周辺で、びわ湖の中でも数少ない貴重な生息地となっています。
しかし、安心はできません。外来生物の進入による多様性の崩壊、バス釣りやプレジャーボートによる生息域の攪乱、マナーを守らないカメラマンや野鳥観察者による脅威等々心配事は尽きることがありません。

特に天然記念物であり、滋賀県版RDB(レッド、データ、ブック)で絶滅危機増大種に指定されているガンの仲間のオオヒシクイは、びわ湖内でも水鳥公園周辺にしか生息しない鳥です。

かつてガン類は「堅田の落雁」に見られるように、大津近辺でも生息していました。しかし、今や湖北に300羽程が越冬するだけになってしまいました。

この貴重なガンを守ることは、他の鳥たちや魚等も同時に守ること、すなわち湖北の環境を守ることに他ならないのです。50年100年後にも、びわ湖の上をカギになりサオになり飛ぶ雁行が見られるためには、私たち人間が自然との付き合い方をもう一度考えることが大切ではないでしょうか。



『湖畔のコハクチョウ』



『群れで飛ぶコハクチョウ』



『天然記念物のオオヒシクイ』

※※ オオヒシクイ ※※

ガンの仲間である「オオヒシクイ」は天然記念物であり、びわ湖を代表する水鳥です。

シベリアで繁殖し、冬は南へ移動します。びわ湖に渡来して来るのは9月末ごろからで、約300羽が冬を越し、2月の中頃から末には北の国へ帰っていきます。

オオヒシクイは大型の水鳥で、翼を広げると180cmもあり、雄、雌は同じ色をしています。

みんなの リエデン

環境推進グループ～太田より

～びわ湖環境ビジネスメッセへの思い～

リエデンプロジェクトをスタートして、3回目のメッセ。今年、『つながる仲間 ひろがるヨシ活用』をテーマに展示したところ、いろいろなお意見をいただきました。「昨年とイメージがちがうね」「カラフルなノートで楽しいですね」「こんな展示の仕方もあるのだ」「こんな展示をやってみたいな」「リエデンノート愛用しているよ」こんなうれしい言葉をかけていただくことができました。おかげさまで徐々にですが、みなさんに「リエデン」という名前を覚えていただき、「広がって来ているなあ」と感激する場面がしばしばありました。



3年前ヨシの活用から出発し、「単なる物売りだけでなく地域の環境保全に貢献出来る活動を大切にしていきたい」という思いが伝わるブース創りを目指したのです。

特にテーマを象徴するのが、ヨシ刈りボランティアの広がりです。参加1年目は、社員に声を掛けても数名の参加者が集まるのがやっとでした。2年目には、ようやく40、50名の参加があり、社員の環境意識が芽生えてきたことを感じることが出来ました。

次は社内だけでなく、もっと多くの人達に参加してもらえればとの思いがつのり、ネットワークを発足させ声をかけてみたのです。結果、3年目のヨシ刈りボランティアには、12社、総勢180名ほどの参加者が集まり、一緒に汗を流すことが出来ました。

企業・団体の柿根を超えた地元の環境を考える仲間が、これほど多く集まっていただけの活動に広がり、まさに“つながる仲間”が実現出来たのです。私たちの思いは、この“つながり”を大切にしていきたいのです。



ヨシ活用から出発したネットワーク、ヨシ刈りボランティアという形でつながることが出来ました。また、少しずつですがコラボ活動のつながりも広がりを見せています。こんな仲間が少しずつ増え、ヨシ刈りに限らずいろんな形で協力関係が生まれてくれれば最高です。

メッセでは、ネットワークに新たに賛同していただける企業、団体、さらに個人にまで、すそ野を広げた募集しました。その思いが伝わり、広く県外からも共感していただける仲間の輪が生まれています。

『つながる仲間 ひろがるヨシ活用』が一步ずつ前進しています。びわ湖環境ビジネスメッセは、みなさんと一緒に環境を考えるきっかけとなる、絶好の機会となったのです。

- ・ ネットワーク会員さまを募集しています。
お知り合いの企業・団体・個人さまをご紹介ください。
- ・ コクヨ工業滋賀ホームページに「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」コーナーを掲載しました。
これまでのネットワーク通信をアップしております。
是非ホームページにアクセスして下さい。
<http://www.kokuyo-shiga.co.jp/>

お知らせ

メンバーコーナー

茶殻の有効活用に取り組んでいます！

伊藤園では、経営方針「みんなで環境を考える伊藤園」のもと、ISO14001(環境経営システム)に基づき、全部署全社員で、それぞれの業務に沿った環境目標を立て環境負荷軽減に取り組んでいます。その中で、特に注目されているのが「茶殻リサイクルシステム」です。

「お〜いお茶」は急須で入れるお茶と同様に茶葉を抽出して製造しているため、製造後には茶殻が排出されます。これまでも、肥料や飼料などに有効活用してきましたが、消臭・抗菌といった茶殻の“効果”を活用するだけでなく、限りある資源の代替え原料として、“身の回りの製品”に有効利用しています。

2000年より、10年、20年先の未来を見据えた、新たなりサイクル方法の研究をスタートさせ、独自の「茶殻リサイクルシステム」を開発。大きなメリットは、水分を含んだ茶殻をそのまま製造工程に投入する為、「乾燥コスト」や「乾燥エネルギー」を必要としない点です。

今後も、茶殻リサイクルシステムを持続可能なビジネスとして展開し社会に対して「茶殻＝有価物」というPRを行ってまいります。

2009年まで関西地区のみで実施していた環境保全キャンペーン「お茶で琵琶湖を美しく」を2010年度から全国を対象を広げ「お茶で日本を美しく」として実施しています。これは「お〜いお茶」シリーズの売上の一部を貴重な自然環境の美化・保全活動に寄付するというものです。
※本年は、2010年12月より2011年2月まで「琵琶湖キャンペーン」を実施させていただきます。



※ 今年11月には、第12回グリーン購入大賞「審査員特別賞」を受賞いたしました。

「茶殻リサイクルシステム」

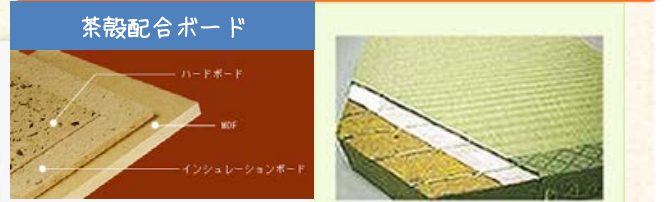
URL:<http://www.itoen.co.jp/csr/recycle/index.html>

編集後記

長浜市街を抜け湖岸道路を北に車で走ると湖北野鳥センターにたどり着きます。目の前には、壮大に広がる北湖の姿があり、びわ湖の自然が手つかずのまま残った風景が広がっていました。オオヒシクイは、私の想像より遙かに大きく、野生の臭いが漂って来るようで、湖北は貴重な自然環境が残された地域であることを感じさせてくれました。

茶殻を資源として有効利用されユニークな商品が次々と開発されている伊藤園さま、「特別賞」おめでとうございます。今後の展開を楽しみにしています。(T・O)

伊藤園 関西本部 井筒様より



びわ湖を知る ■ 解答

- ① 約275億㎡
2番目に大きい支笏湖(北海道)の約1.3倍にあたるそうです。
(北湖273億㎡ 南湖2億㎡)